

6 採卵鶏農場における寄生ダニのモニタリング調査

福島県北家畜保健衛生所

小林 準

平成 26 年 7 月、約 3,600 羽の採卵鶏を飼養する農場より、ワクモの対策について相談があり、可能であれば薬剤の使用は避けたい意向であった。浸潤状況を把握するため、同年 7 月下旬から 6 日間、10cm×40cm、厚さ 5mm のボール片 5 枚を 40cm 間隔でケージ下部に毎日設置し、回収されたワクモを計数した。吸血済みのワクモは、捕獲が進むにつれ 93 頭/日から 26 頭/日へと漸減したが、未吸血のワクモは 24 頭/日から 30 頭/日へとやや漸増傾向にあり、鶏舎内のワクモは横ばいか、やや増加傾向にあると判断した。また、同時期の日中に 10 羽の鶏について、初日及びその 8 日後に、クロアカより約 1cm 頭側の腹部に 6cm 四方の粘着テープを貼り付け、ダニを直接採取した。合計回収頭数は初日が 573 頭、8 日後に 437 頭と常在的な寄生が認められ、検査期間中 100 頭以上の寄生が認められた鶏が 2 羽、10 頭以上 50 頭未満が 3 羽、1 頭以上 10 頭未満が 2 羽、寄生無しが 3 羽と、鶏毎に寄生状況が異なっていた。採取したダニを一部抽出し、顕微鏡下で形態的特徴により分類したところ、初日が 108 頭中ワクモ 82 頭 (76%) 及びトリサシダニ 26 頭 (24%)、8 日後が 62 頭中ワクモ 44 頭 (71%) 及びトリサシダニ 18 頭 (29%) であった。常在寄生のダニが確認されたことから、鶏舎の清掃のほか、殺ダニ剤の適正使用を指導した。